

大阪中之島美術館 2025年度開催展覧会のお知らせ

2025年度開催の展覧会が決定

このたび、大阪中之島美術館で2025年度に開催する展覧会のラインナップ（下記）が決定しましたのでお知らせします。つきましては、各展覧会の告知についてご協力賜りますようお願い申し上げます。

【2025年度開催展覧会ラインナップ】

大カプコン展 一世界を魅了するゲームクリエイション	2025年3月20日（木・祝）－ 6月22日（日）
生誕150年記念 上村松園	2025年3月29日（土）－ 6月1日（日）
日本美術の鉱脈展 未来の国宝を探せ！	2025年6月21日（土）－ 8月31日（日）
小出楯重展（仮称）	2025年9月13日（土）－ 11月24日（月・休）
新時代のヴィーナス！アール・デコ100年展	2025年10月4日（土）－ 2026年1月4日（日）
シュルレアリスム 拡大するイメージ 視覚芸術から広告、ファッション、インテリアへ（仮称）	2025年12月13日（土）－ 2026年3月8日（日）
サラ・モリス	2026年1月31日（土）－ 2026年4月5日（日）

■ 大カプコン展 一世界を魅了するゲームクリエイション

家庭用ゲーム機の登場から約半世紀——ドット絵から始まった「ビデオゲーム」は、いまや映画と肩を並べるような美しい映像によって多くの新しい世界を生み出しています。私たちの生活に広く浸透し大衆文化の一部になったゲームはいまや、テクノロジーと表現の領域を横断し、クリエイターの創造力と個性が発揮される総合芸術であると言えるのではないのでしょうか。1983年の創業から世界的ゲームソフトメーカーに成長した現在まで、その本社を大阪に置くカプコンは、数多くのタイトルを開発し、世界の人々を魅了してきました。

本展では開発者たちの「手」による企画書や原画、ポスターやパッケージなどのグラフィックワーク、体験型コンテンツ、最新技術など、ゲーム誕生の壮大なプロセスとそこに関わるクリエイターたちの想像力と実現力を惜しみなく展覧会という場に投入し、日本が誇るゲーム文化をあらためて捉えなおす機会を創出します。

【展覧会名】大カプコン展 一世界を魅了するゲームクリエイション

【会期】2025年3月20日（木・祝）－ 6月22日（日）

【主催】大阪中之島美術館、読売新聞社

【特別協力】カプコン

【会場】大阪中之島美術館 5階展示室



【参考画像】



(左から) 展覧会ロゴ | メインビジュアル

■ 生誕150年記念 上村松園

女性芸術家がまだ少ない時代に、並外れた努力を重ねて名声を築いた上村松園（1875 - 1949）。若くして頭角をあらわした松園は、明治から昭和にかけて60年にわたって絵筆をとり、人物画の第一人者として独自の境地を拓きました。浮世絵などの古画を研究し、伝統芸能、古典文学などの豊かな知識をもとに描かれた、気品ある清澄な女性像の数々は、今日も観る者に深い感銘を与えます。上村松園が誕生して150年の節目を迎えることを記念して、本展では珠玉の作品群によってその画業をご紹介します。女性として初めて文化勲章を受章し、近代美術史に揺るがない足跡を残した松園芸術の真価をあらためてふり返る機会とします。

【展覧会名】 生誕150年記念 上村松園

【会期】 2025年3月29日（土） - 6月1日（日）

【主催】 大阪中之島美術館、日本経済新聞社、テレビ大阪、京都新聞、神戸新聞社

【協賛】 DNP大日本印刷

【会場】 大阪中之島美術館 4階展示室

【主な出品作品】



(左から) 《わか葉》1940年 名都美術館 [前期展示] | 《花》1910年 姫路市立美術館 [前期展示] | 《母子》(重要文化財) 1934年 東京国立近代美術館 [後期展示] | 《序の舞》(重要文化財) 1936年 東京藝術大学 [後期展示] | すべて 上村松園



■ 日本美術の鉱脈展 未来の国宝を探せ！

【概要】

日本美術には、まだ世に知られていない作者、作品が埋もれています。例えば、伊藤若冲（1716 - 1800）の場合、2000年に京都国立博物館で開催された展覧会をきっかけに、空前の若冲ブームが巻き起こりましたが、そんな若冲も、2000年以前は一般の人々にとっては「知られざる鉱脈」でした。その後も若冲をはじめとする奇想の画家の発掘は進みましたが、縄文から近現代まで、いまだ知られざる鉱脈がまだまだ眠っています。本展では、あらためてその鉱脈を掘り起こし、美しい宝石として今後の日本美術史に定着していくことを目標としています。観客のみなさんが、ご自分の眼で「未来の国宝」を探していただきたいと思います。

【展覧会名】 日本美術の鉱脈展 未来の国宝を探せ！

【会期】 2025年6月21日（土） - 8月31日（日）

【主催】 大阪中之島美術館、日本経済新聞社、NHK大阪放送局、NHKエンタープライズ近畿

【会場】 大阪中之島美術館 4階展示室

【主な出品作品】



（左から）牧島如鳩《魚籃観音像》 1952年 足利市民文化財団 | 伝岩佐又兵衛《妖怪退治図屏風》（部分） 江戸時代（17世紀） | 安藤緑山《胡瓜》 大正 - 昭和時代

■ 小出楢重展（仮称）

大阪市出身で、近代日本を代表する洋画家の一人、小出楢重（1887 - 1931）の25年ぶりの回顧展です。東京美術学校を卒業後、二科展に《Nの家族》を出品し画壇にデビューした楢重は、43歳で急逝するまで日本人としての油彩画を追求し続け、静物画や裸婦像において数々の傑作を残しました。「裸婦の楢重」と呼ばれるように裸婦像の名手として知られ、特に1926年の芦屋への転居後約5年のうちに制作された作品群では、大胆なデフォルメと艶やかな色彩により日本人女性の裸体を独自の造形美へと高めています。本展では、初期から晩年までの画業を各時代の代表作とともにたどり、楢重の油彩画の魅力に改めて迫ります。また、素描、ガラス絵、装幀、挿絵、随筆などに発揮された多彩な才能をご紹介します。

【展覧会名】 小出楢重展（仮称）

【会期】 2025年9月13日（土） - 11月24日（月・休）

【主催】 大阪中之島美術館

【会場】 大阪中之島美術館 4階展示室

【主な出品作品】



(左から) 《雪の市街風景》1925年 芦屋市立美術博物館 | 《卓上静物(西瓜のある静物)》1928年 大阪中之島美術館 | 《横たわる裸身》1930年 アーティゾン美術館 | 《枯木のある風景》1930年 ウッドワン美術館 | すべて 小出楯重

■ 新時代のヴィーナス！アール・デコ100年展

1925年パリで開催された現代産業装飾芸術国際博覧会から、2025年で100周年を迎えます。アール・デコ博と呼ばれるこの博覧会は装飾芸術(デザイン)に焦点を当てた博覧会で、活況を呈した1900年のパリ万博以降の雰囲気を集大成すると共に、以降アメリカをはじめとする諸外国に国際的な影響を及ぼしました。ここ大阪にもアール・デコは伝播し独自の文化を生み出していきます。本展は、この幅広いアール・デコと呼ばれる様式の中でも、とりわけ女性と関わりの深いデザイン作品に焦点を当て、当時のグラフィック、ファッション、ジュエリー、香水瓶、乗用車等をご観覧に供するものです。100年前の「理想的な女性」像を振り返り、そのデザイン諸相を再発見、ご堪能いただく機会となります。

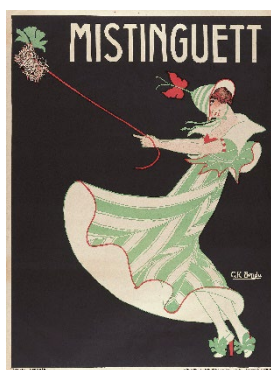
【展覧会名】新時代のヴィーナス！アール・デコ100年展

【会期】2025年10月4日(土) - 2026年1月4日(日)

【主催】大阪中之島美術館 ほか

【会場】大阪中之島美術館 5階展示室

【主な出品作品】



(左から) 《BMW 315/1 ロードスター》1935年 堺市 堺市ヒストリックカー・コレクション | ユップ・ウィールツ 《ヴォーグ 今年の冬の香水はこれだ》1925年 サントリーポスターコレクション(大阪中之島美術館寄託) | G・K・ベンダ 《ミスタンゲット》1930年 サントリーポスターコレクション(大阪中之島美術館寄託) | ホーレス・テイラー 《海辺の小旅行》1934年 サントリーポスターコレクション(大阪中之島美術館寄託)



■ シュルレアリスム 拡大するイメージ 視覚芸術から広告、ファッション、インテリアへ（仮称）

1924年にアンドレ・ブルトンが定義づけた動向であるシュルレアリスム（超現実主義）は、無意識や夢に着目した、フロイトの精神分析学に影響を受けて発生しました。当初は文学における傾向として起こったものですが、徐々にその影響は拡大し、オブジェや絵画、写真・映像といった視覚芸術をはじめ、広告やファッション、インテリアへと幅広い展開をみせました。

芸術的革命をもたらしたシュルレアリスムは、政治的要素をも内包する一方、日常に密接した場面にも拡がりを見せ、社会に対して政治、日常の両面からアプローチしたといえます。圧倒的存在感をもって視覚芸術、ひいては社会全体へと拡大したシュルレアリスムを、表現の媒体をキーワードとして解体し、シュルレアリスム像の再構築をめざします。

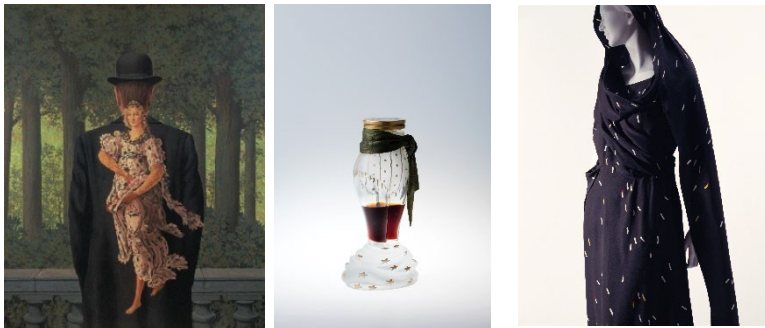
【展覧会名】シュルレアリスム 拡大するイメージ 視覚芸術から広告、ファッション、インテリアへ（仮称）

【会期】2025年12月13日（土）－2026年3月8日（日）

【主催】大阪中之島美術館

【会場】大阪中之島美術館 4階展示室

【主な出品作品】



（左から）ルネ・マグリット《レディ・メイドの花束》1957年 大阪中之島美術館 | エルザ・スカパレリ《ズエット》1949年 高砂香料工業株式会社 | エルザ・スカパレリ《イヴニング・ドレス》1935年夏 京都服飾文化研究財団 ©京都服飾文化研究財団、島山崇撮影

■ サラ・モリス

ニューヨークを拠点に活動するアーティスト、サラ・モリスは、大都市の風景を平面へと変換した抽象絵画や、それを建築的に展開させたパブリックアート、都市の生態を切り取った映像作品など、多岐にわたる創作活躍を続けています。それらの作品は、華やかな都市生活に隠された政治経済といった社会構造を表しています。

大阪中之島美術館は、サラが2018年に大阪を舞台に制作した映像作品《サクラ》と、その撮影にインスパイアされた絵画作品《サウンドグラフ》シリーズ等を収蔵しています。本展はこれら近作にくわえ、彼女の代表作である都市名を冠した幾何学的な絵画や初期作品、これまでの映像作品を一堂に紹介します。本展は、サラ・モリスの日本初の美術館での回顧展としてふさわしい充実したものと言えるでしょう。



【展覧会名】 サラ・モリス

【会期】 2026年1月31日（土） - 4月5日（日）

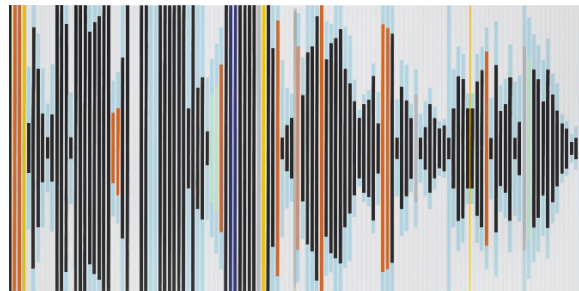
【主催】 大阪中之島美術館

【協賛】 Kevin P. Mahaney Center of the Arts Foundation、株式会社サクラクレパス

【助成】 公益財団法人大林財団

【会場】 大阪中之島美術館 5階展示室

【主な出品作品】



(左から) 《サクラ》2018年 HD Digital 50分6秒 大阪中之島美術館 | 《社会は抽象的であり、文化は具体的である [サウンドグラフィ]》2018年 家庭用アクリル塗料 カンヴァス 214 x 428 cm 大阪中之島美術館 | すべて サラ・モリス © Sarah Morris

今後開催する展覧会情報

塩田千春 つながる私 (アイ)

2024年9月14日（土） - 12月1日（日）

開館3周年記念特別展 TRIO パリ・東京・大阪 モダンアート・コレクション

2024年9月14日（土） - 12月8日（日）

歌川国芳展 -奇才絵師の魔力

2024年12月21日（土） - 2025年2月24日（月・休）

Space In-Between : 吉川静子とヨゼフ・ミュラー＝ブロックマン

2024年12月21日（土） - 2025年3月2日（日）

各広報窓口は館のホームページをご確認ください

<https://nakka-art.jp/press-post/>

■ Osaka Directory supported by RICHARD MILLE

【概要】

3年目となる2024年度は、小松千倫（1992年、高知県生まれ、京都府在住）、谷中佑輔（1988年、大阪府生まれ、ベルリン在住）、KOURYOU（1983年、福岡県生まれ、大阪府を拠点）の3名を紹介します。各展覧会の詳細については、それぞれ開催の約2カ月前にお知らせする予定です。

【会期】 Osaka Directory 7 supported by RICHARD MILLE 小松 千倫

2024年11月16日（土） - 12月15日（日）

Osaka Directory 8 supported by RICHARD MILLE 谷中 佑輔

2024年12月21日（土） - 2025年1月19日（日）

Osaka Directory 9 supported by RICHARD MILLE KOURYOU

2025年1月25日（土） - 2月24日（月・休）

【休館日】 月曜日（祝日の場合は翌平日）

【主催】 大阪中之島美術館、公益財団法人 関西・大阪21世紀協会

【supported by】 RICHARD MILLE



【協賛】 サントリーホールディングス株式会社、ロート製薬株式会社、西日本電信電話株式会社、ダイキン工業株式会社、株式会社丹青社、西尾レントオール株式会社

【会場】 大阪中之島美術館 2階 多目的スペース

【料金】 入場無料

【参考作品】



(左から) 小松千倫《Sucker》2023年 撮影：竹久直樹 | 谷中佑輔《Pulp Physique #10》2022年 撮影：大塚敬太+稲口俊太 | KOURYOU《KNOT》2023年 ユアサエボシ蔵

「Osaka Directory supported by RICHARD MILLE」について

「Osaka Directory supported by RICHARD MILLE」は、大阪中之島美術館が関西・大阪21世紀協会と共同で主催する、関西ゆかりの若手作家を中心に個展形式で紹介する展覧会です。これからの時代を象徴する、新たな表現を生み出す作家を紹介していきます。ディレクトリとは、IT用語でデータを整理し分類するためのフォルダ等を意味します。本シリーズを通して、将来活躍が期待される関西の若手アーティストの情報を美術館というディレクトリに格納、保管し、さらに、ここ大阪中之島美術館から彼らの活動を広く世に紹介し、世界に羽ばたくことを支援していきます。

本リリースに関するお問い合わせ先

「大阪中之島美術館 2025年度開催展覧会 PR事務局 (TMオフィス内)」

担当：馬場・永井・西坂

TEL: 050-1807-2919 TEL: 06-6231-4440

E-mail : nakka-art-2025@tm-office.co.jp